

じゅ けん ばん ごう 受 検 番 号						

(記入してください。)

れい わ ねん ど  
令和 5 年度  
きゅうけんせつ き かい せ こうかんり だいに じけんてい  
2 級 建設機械施工管理第二次検定  
ひつ す もんだい せ こうかんり ほう  
(必須問題) 施工管理法  
たくいつしき し けんもんだい  
択一式試験問題

つぎ ちゅうい よ よから はじ  
次の注意をよく読んでから始めてください。

ちゅう い  
〔注 意〕

- これは試験問題です。3 頁まであります。
- No. 1～No. 10 まで 10 問題があります。  
必須問題ですから 10 問題すべてに解答してください。
- 解答は、別の解答用紙に記入してください。  
解答用紙には、必ず受検地、氏名、受検番号を記入し受検番号の数字をマーク(ぬりつぶす)してください。
- 解答の記入方法はマークシート方式です。

き にゅうれい  
記入例

問題 番号	解 答 番 号
No. 1	① ● ③ ④
No. 2	① ② ③ ●
No. 3	● ② ③ ④

① ② ③ ④のうちから、正解と思う番号  
を HB または B の黒鉛筆(シャープペンシルの場合  
あいは、なるべくしんの太いもの)でマーク(ぬりつ  
ぶす)してください。  
ただし、1 問題に 2 つ以上のマーク(ぬりつぶ  
し)がある場合は、正解となりません。

- 解答を訂正する場合は、消しゴムできれいに消してマーク(ぬりつぶす)し直してください。

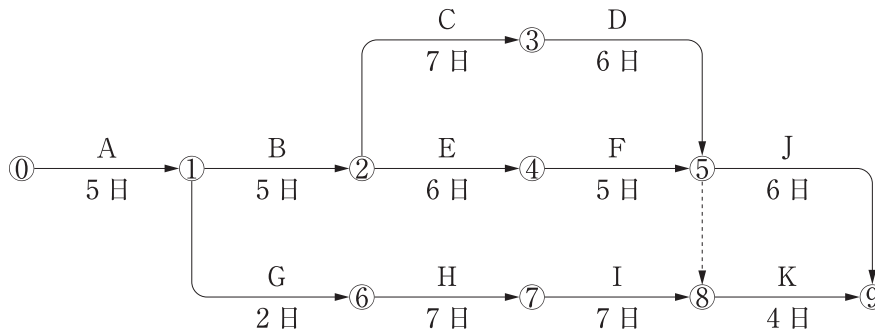
[No. 1] 施工計画の作成における事前調査に関する次の記述のうち、適切でないものはどれか。

- (1) 現場条件の調査の前に、設計図書の内容を精査し、十分把握しておく。
- (2) 自然条件や近隣環境のほか、動力源や用水の状況および労務や資機材の調達先などの現場条件を調査する。
- (3) 工事発注時の現場説明にて事前説明が行われた場合は、現地での事前調査を省略し、事前説明に基づき計画する。
- (4) 現場条件の調査は、調査項目が多くなるため、調査漏れがないようにチェックリストを作成して行うとよい。

[No. 2] 仮設備の計画に関する次の記述のうち、適切でないものはどれか。

- (1) 目的物を施工するための臨時的な構造物で、工事完成後は原則として取り除かれる。
- (2) 使用期間に関係なく、工事目的物と同じ安全率で設計する。
- (3) 現場事務所、倉庫、モータープール等の設置・撤去工事は、共通仮設工事に区分される。
- (4) 指定仮設の場合は、指定の数量等に変更が生じたときは設計変更の協議対象となる。

[No. 3] 下図に示すネットワーク式工程表に示された工事の所要日数として次のうち、適切なものはどれか。ただし、図中のイベント間のA～Kは作業内容、日数は作業日数を表す。



- (1) 29日
- (2) 28日
- (3) 27日
- (4) 26日

[No. 4] 工程管理曲線(バナナ曲線)を用いた工程管理に関する次の記述のうち、適切でないものはどれか。

- (1) 予定工程曲線を最大施工速度をもとに作成し、実施工程曲線とのズレが許容範囲にあるか判定する。
- (2) 工期末を100%とした時間経過率を横軸に、工期末の出来高を100%とした工程進捗率を縦軸にとったグラフである。
- (3) 実施工程曲線がバナナ曲線の下限を下回る場合は、突貫工事が不可避な状態となっている。
- (4) 実施工程曲線がバナナ曲線の上限を上回る場合は、不経済な状態となっていないか検討する。

[No. 5] 建設機械を用いた道路土工の作業での安全確保に関する次の記述のうち、適切でないものはどれか。

- (1) ブルドーザなどによる高盛土工の敷ならし作業では、ポールやトラロープなどで法肩の位置を明示する。
- (2) バックホウによる土砂のオープンカット作業では、法肩の崩壊時に退避できるようクローラの向きを道路縦断方向に直角とする。
- (3) モータグレーダによる路盤材料の敷ならし作業では、カーブの際にリーニングによる巻込みに注意する。
- (4) ローラによる盛土路肩部の転圧作業は、機体を道路縦断方向に向け、ロール端を路肩端部に合わせて行う。

[No. 6] 架空線など上空施設および地下埋設物の近くでの工事における留意点に関する次の記述のうち、適切でないものはどれか。

- (1) 埋設物が予想される場合は、設計図書における地下埋設物に関する条件明示内容を把握する。
- (2) 工事の施工中に、管理者が不明な埋設物を発見した場合は、保安措置を講じながら直ちに掘り起こして保管したあと、発注者に報告する。
- (3) 建設機械の作業装置などにより、架空線との接触や切断などの可能性がある場合は、架空線への防護カバー設置などの保安措置を行う。
- (4) 架空線に近接して工事を行う場合は、架空線と機械、工具、材料などについて安全な離隔を確保する。

[No. 7] 締固め管理における密度計測方法に関する次の記述のうち、適切でないものはどれか。

- (1) 砂置換法では、掘り出し跡の穴を、密度が既知の乾燥砂で置換することにより、掘り出した土の体積を知ることができる。
- (2) ブロックサンプリングでは、掘り出した土塊の体積を、パラフィンを湿布して液体に浸すなどにより直接測定する。
- (3) RI密度計は、計測時間が短く精度が高いため、アスファルト混合物の密度管理に適している。
- (4) RI密度計は、土の密度と水分を同時に測定できる。

[No. 8] 盛土の締固めの品質管理に関する次の記述のうち、適切でないものはどれか。

- (1) 締固めに使用する機械の機種、締固め回数および盛土材料の敷ならし厚さなどを規定する方法は、品質規定方式である。
- (2) TS(トータルステーション)やGNSS(GPS等)を用いて、締固め機械の走行記録をもとに管理する方法は、工法規定方式である。
- (3) プルーフローリングにより締固め後の強度や変形を確認する方法は、品質規定方式である。
- (4) タスクメータを用いて、締固め機械の稼働時間の記録をもとに管理する方法は、工法規定方式である。

[No. 9] 建設工事現場における騒音・振動対策に関する次の記述のうち、適切でないものはどれか。

- (1) ブルドーザを掘削運搬作業に使用する場合は、負荷が一定であれば、速度が速くなるほど騒音が大きくなる。
- (2) 電気を動力とする機械は、可能な限り発動発電機の使用を基本に検討する。
- (3) 振動ローラやタンパを使用する場合は、作業時間帯の設定について十分留意する。
- (4) バックホウを掘削に使用する場合は、衝撃力による施工を避け、無理な負荷をかけない。

[No. 10] 「建設廃棄物処理指針(環境省通知)」に基づく工事現場における分別に関する次の記述のうち、適切でないものはどれか。

- (1) 廃棄物の集積場や分別容器に廃棄物の種類を表示する。
- (2) 廃棄物の発生現場から集積場までの運搬方法を具体的に計画する。
- (3) 工事の進捗により排出される廃棄物の種類が違うので、工程に見合った分別計画を立てる。
- (4) 工事から排出される可燃物は、工事現場従事者からの生活系廃棄物と同一の容器に保管する。